

しおんだより VOL.72



研修医の先生がくると、病院に元気が出ます！

先月号では、大阪急性期・総合医療センターから初期研修の先生が、当院初の地域医療実習に来られたということをお伝えしました。それに引き続き、9月の半ばから、2人目になる井上綺巳先生がお越しになりました。

当院では整形外科、消化器一般外科の手術も行っており、そこにも入って頂きました。

1年あまり、すでにしっかりした研修を受けておられるので、前任の先生と同様とても安心して一緒に医療にあたることができました。将来は小児科の専攻を志望されているということですが、医師人生も長く、やはり高齢の患者さんに対応することも多いので、手前味噌ながら、当院での研修はよい機会になったのではないかなと思いました。

当院はドクターの数も少なく、コメディカルスタッフとの連携も急性期病院に比べると進んでいる面が多いので、積極的に色々な処置や手技には直接携わって頂きましたが、いずれもスムーズにこなされていて感心しました。手術にも何例か入って頂きましたし、消化器内視鏡の検査や内視鏡下の処置にも取り組むとともに、肺炎や脱水症で入院されてきた方の初期対応から、入院加療、そして退院まで一通り経験して頂くことができました。いつも思うのですが、20年後は、彼女の年代の医療従事者がこの国、地域の医療を支えます。当院での研修を踏まえて、良いお医者さんになってくださいね。

院内でのマスク着用について

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった2021年から2023年ぐらまで。本当に大変でした。私も、記憶が朦朧としています。

3密をさけて、マスク、手洗い。この基本を私たちは守りながら、みんながそれぞれ努力して、なんとかコロナの感染の収束を迎えました。ただ、その後、惰性というか、なんでマスクをしているんだろうという場面も増えてきました。

「目は口ほどにものを言う」のことわざ通り、目が見えていればだいたいことはわかりますが、やはり、マスクをしているとコミュニケーションが上手くいかない場面があるのも事実。また、高齢の患者さんが多い当院では、声が聞こえづらくなるため、口元がみえないと話をしている内容がご理解いただけないケースもあります。咳、鼻水、発熱などの方は引き続きマスクをお願いしますが、あとは個人のご判断におまかせします。是非、ご理解・ご協力をお願いします。



当院でのマスク着用は個人判断になります。ただ、症状がある方は、マスク着用をお願いします。



先日は、病院に機器を持ち込んだ上で、ウェブセミナーを開催していただきました。

秋は講義・講演の季節でもあります

有り難いお話ですが、もう20年ぐら、色々なところからご講演や講義の依頼をいただいています。講演は、地元の医師会や薬剤師会、さらには、様々な製薬メーカーさんが共催する研究会や勉強会など。講義は、全国の大学の医学部や薬学部などで、多いときには年間150回を超える年もありました。

テーマは、色々和多岐にわたりますが、やはり、高齢者の医療にどのように取り組んで行くのかということが多いです。キーワードになるのは、多職種連携・チーム医療。病院でも医師だけでは患者さんを治し、退院していただくことが難しくなっているのだと実感します。

当院では、医師だけでなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、柔道整復師など様々な職種が連携し、良い医療が提供できはじめている…。そんなお話をしています。（文責：狭間研至）

しおんだより 第72号 発行日：令和8年10月15日

発行人：狭間研至

発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp